

2021年7月22日

2021年FIA-F4選手権シリーズ第2大会 参戦報告書

Honda フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト 阿部 正和

2021年FIA-F4選手権シリーズ

HFDP 参加選手レポート

第2大会（第5戦／第6戦／第7戦） 参戦レポート

7月17日（土）～18日（日）、ツインリンクもてぎ（栃木県）で2021年FIA-F4選手権シリーズ第2大会（第5戦、第6戦、第7戦）が開催されました。本来予定されていた第2大会（第3戦、第4戦）が新型コロナウイルス感染拡大を受けて8月へ延期されたため、今回は第1大会から1ヶ月半以上のインターバルを挟んで第5戦～第7戦が先送りで開催されました。HFDP (Honda フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト)からは#5 小出峻（1999年10月26日生まれ、21歳）、#6 木村偉織（1999年6月22日生まれ、22歳）、#7 太田格之進（1999年6月18日生まれ、22歳）の3人が参戦しました。



太田 格之進が2戦で表彰台。

■公式予選（30分間）：天候/曇り 路面/ドライ



練習走行が行われた前日は夏の太陽が照りつける好天でしたが、土曜日午前中は空に雲が広がり気温が前日ほどには上がらない状況で公式予選セッションが始まりました。従来、夏のツインリンクもてぎではFIA-F4イベントが開催されてこなかったため、チームは木曜と金曜の公式練習でマシンを仕上げましたが、木曜に比較して金曜は気温路温が向上し、土曜日は再び気温、路温が低下したため、各選手とも必ずしも十分な自信を持ってセッションに臨んだわけではありませんでした。30分間のセッションの結果、ベストタイム順で予選結果

が決まる第5戦では#6 木村が3番手、#7 太田が4番手、#5 小出が8番手につけ、セカンドベストタイム順で結果が決まる第6戦では#6 木村が3番手、#7 太田が4番手、#5 小出が6番手となりました。

第5戦公式予選結果

予選3位 #6 木村 偉織 1分58秒200

予選4位 #7 太田 格之進 1分58秒236

予選8位 #5 小出 峻 1分58秒448

第6戦公式予選結果（タイムアタックのセカンドタイム順に決定）

予選3位 #6 木村 偉織 1分58秒366

予選4位 #7 太田 格之進 1分58秒378

予選6位 #5 小出 峻 1分58秒535

■第5戦決勝レース（13周）：天候/晴れ 路面/ドライ



朝の公式予選は曇り空で行われましたが、その後天候が回復、レースのスタート時点では真夏の太陽が照りつけて気温、路温共に上昇したことを受けて、チームはマシンのセッティングを見直して午後からの第5戦に臨みました。12時15分、第5戦の決勝レースがスタートし、34台のマシンがレースを始めました。

オープニングラップの3コーナーで#6 木村が前の選手に並びかけオーバーテイクを試みましたが、勢い余ってわずかにコースをはずみ出して失速、#7 太田が#6 木村の前に出ました。#5 小出はうまく前の2台をオーバーテイクして#6 木村の背後につけ、オープニングラップを終えた段階では#7 太田が3番手、#6 木村が4番手、#5 小出が5番手と続きました。

3番手の#7 太田は2番手の選手との間隔を1秒以下に保ってオーバーテイクのチャンスを狙いましたが、レース後半に入るとその間隔は徐々に開いていきました。一方、#6 木村、#5 小出ともレース前半のペースを重視したセッティングでスタートしていたためレース後半はタイヤ消耗が進んでペースが上がらなくなり、#5 小出は10周目に後方から攻められて順位を落とし、さらにファイナルラップ、#6 木村も順位を落としてチェッカーフラッグを受けました。#7 太田はポジションを守り切って3位に入賞し、表彰台に上がりました。



【FIA-F4 選手権シリーズ第5戦・レース結果】

#7 太田 格之進	決勝3位 (25分59秒278)	ベストタイム	1分58秒837)
#6 木村 偉織	決勝5位 (26分01秒253)	ベストタイム	1分59秒088)
#5 小出 峻	決勝7位 (26分02秒100)	ベストタイム	1分59秒051)

■第6戦決勝レース（13周）：天候/晴れ 路面/ドライ



土曜日の午後4時10分、シリーズ第6戦の決勝がスタートしました。スターティンググリッド3番手からうまく加速した#6 木村は、2番手スタートの選手をアウトからオーバーテイクして2番手へ進出しました。#7 太田は4番手を守り、#5 小出はうまく加速して5番手に続きましたが、オープニングラップの90度コーナーでアウトに並ばれ、ビクトリーコーナーでアウト側へ押しやられた結果、2つポジションを落とし7番手でオープニングラップを終えました。

ここで、コース上の停止車両を排除するためセーフティーカーがコースインし、レースは4周目に再開しました。2番手の#6 木村はリスタートのタイミングに合わせ先頭車両に攻めかかりましたが押さえ込まれ、逆に先頭車両がスパートした結果、間隔を開かれてしまいました。

6周目には4番手の#7 太田が後方から攻められてポジションを1つ落とし、2番手の#6 木村も7周目の1コーナーでイン側のラインを後続車に奪われ3番手に後退しました。ここでこのレース2回目のセーフティーカー

がコースインしました。

レースは9周目に再開。3番手の#6 木村はまたリスタートのタイミングに合わせてうまく加速、1コーナーで先行車を捉え2番手を奪い返しました。その後方では5番手の#7 太田、7番手の#5 小出がデッドヒートを繰り広げながらポジションを守るレースを続けました。結局#6 木村は後続車を振り切って2番手を守ったままチェッカーフラッグを受け表彰台に上がりました。#7 太田は前後が1秒を切る間隔でのデッドヒートを戦い抜いて5位でフィニッシュ、#5 小出は12周目の1コーナーで先行車にクロスラインをかけてオーバーテイクに成功、太田に続く6位でレースを終えました。



【FIA-F4 選手権シリーズ第6戦・レース結果】

#6 木村 偉織 決勝2位 (29分20秒150 ベストタイム 1分59秒499)
#7 太田 格之進 決勝5位 (29分24秒931 ベストタイム 1分59秒759)
#5 小出 峻 決勝6位 (29分26秒825 ベストタイム 1分59秒814)

■第7戦決勝レース (13周) : 天候/晴れ 路面/ドライ



日曜日午前8時33分、シリーズ第7戦のレースが始まりました。ツインリンクもてぎの上空には薄い雲が広がり、気温は25.4度、路面温度は28.7度と前日の第5戦、第6戦よりも低くなりました。このレースのスターティンググリッドは、第5戦のレース中に記録されたそれぞれのベストタイム順で決まり、#7 太田が2番手、#5 小出が7番手、#6 木村が8番手からのスタートとなっています。

2番手グリッドの#7 太田はスタート合図と共にうまく加速しましたが先頭車両には届かず、S字コーナーで#6 木村が#5 小出を捉えてオーバーテイクしました。その他の上位陣はほぼグリッド順でオープニングラップを終えました。

#7 太田は先頭車両と1秒強の間隔を保って追走し、7番手の#6 木村、8番手の#5 小出は前後0.5秒から1秒の間隔を守って周回を重ねました。ところが7周目の最終コーナーで#5 小出はサスペンショントラブルにより走行不能となってレースから脱落してしまいました。#7 太田は快調に走行を続ける先頭車両を追走し続けますが、じりじりと間隔を開かれていきました。一方#6 木村は後方から攻め立てられ、防戦を続けました。

最終ラップの最終コーナーで、#7 太田の目の前を走っていた周回遅れの車両がスピン、#7 太田はかろうじて接触を避け最終コーナーを立ち上がりましたが3番手の車両が背後まで迫り、わずか0秒263差で逃げ切って2位入賞を果たしました。#6 木村は7位でフィニッシュしました。#7 太田、#6 木村とも3戦連続で選手権ポイントを獲得しました。

シリーズポイントランキングではドライバー部門で#6 木村がトップから56点差の59点で3番手を守り、#7 太田が55点で4番手に躍進、#5 小出が38点で7番手へ後退しました。チーム部門でHFDP



は33点差の82点で2番手につけてシリーズ第2大会を終えました。

【FIA-F4選手権シリーズ第7戦・レース結果】

#7 太田 格之進 決勝2位 (25分59秒393 ベストタイム 1分59秒060)

#6 木村 偉織 決勝7位 (26分05秒274 ベストタイム 1分59秒323)

#5 小出 峻 6周 リタイア

■2021FIA-F4選手権シリーズポイントドライバーランキング (2021シーズン第2大会終了時点)

3番手 #6 木村 偉織 59点

4番手 #7 太田 格之進 55点

7番手 #5 小出 峻 38点

(1位25点、2位18点、3位15点、4位12点、5位10点、6位8点、7位6点、8位4点、9位2点、10位1点。)

■2021FIA-F4選手権シリーズポイントチームランキング (2021シーズン第2大会終了時点)

2番手 HFDP 82点

(各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント：#5 HFDP/SRS/コチラレーシング 小出 峻



この週末はコンディションの変化が大きくて、それに自分のドライビングやセッティングをアジャストしきれず、予選で中盤に沈んでしまいました。第5戦は、スタートには自信があったので1周目で3台抜いたりしましたが、その後は防戦一方のレースになってしまい、第5戦も第6戦もレコードラインよりブロックラインを走っていることの方が多かったようなレースになって

しまいました。でも結果は残らなかったけどあれだけ守って、守り切れたという意味では得るものがあったと思います。第7戦は、スターティングポジションが後方だったので、敢えてセッティングを大きく変えて臨みました。そうしたら良いところもあったけど悪いところもあって、序盤の方は悪いところのリカバリーがうまくいなくて苦しい展開になってしまいました。途中何の前触れもなくアームが曲がってしまってリタイアすることになってしまいました。これもレース、と言うしかありません。でもまだシーズンは序盤、2大会が終わっただけなので、あきらめずに取り組みます。



●ドライバーズコメント：#6 HFDP/SRS/コチラレーシング 木村 偉織



予選は予想よりも気温が低かったのでセットはいい方向だったけどタイヤ内圧の面では不安があってうまくいきませんでした。第5戦では内圧をレース前半にフォーカスして調整したら、レース後半タイヤが厳しい状況になってしまいました。他のチームは前半よりも後半に合わせていたようで、ぼくらは前半、前に詰まってペースアップできないままタイヤを使ってしまい、後半抜かれるという展

開になってしまいました。第6戦ではスタートをうまく決めてポジションを上げましたが途中ペースが上がらず、チャンスはリスタートしかないと思って集中してうまくいきました。優勝はできなかったけど内容としては自分としてはいいレースだったと思います。第7戦は8番手スタートで、スタートを決めてオーバーテイクして、さらにもう1台いきたかったですけどペース的に届きませんでした。でもできることは最大やったかなと思います。



●ドライバーズコメント：#7 HFDP/SRS/コチラレーシング 太田 格之進



第5戦は4位からスタートして3位でゴールしたんですが、スタートでポジション上げてそこから守りのレースになってしまいました。なんとか3位でフィニッシュできてよかったです。第5戦のベストタイムが全体の2番手だったので第7戦のスターティングポジションが良くなりました。それも考えて、第6戦では他の2人がニュータイヤを使ったのに対して僕は古い方のタイヤを使いました。そ

のせいもあって、第6戦は最初から守りのレースになるとわかっていたので、なんとかポジションを下げすぎないように意識してレースをしました。1つ順位を下げたんですが5位で終わって良かったと思います。第7戦は2番手からスタートでしたが、正直なところポールポジションの選手にはペース的に届かないだろうと思っていたのでスタートで勝負をするしかないかと狙っていました。でも結局前には出られず、そこからは離されないように、とにかくノーミスで走ろうと努めました。最後、周回遅れのクルマが目の前でスピンして危なかったんですが、避けることができました。本当にミスなく完璧に走れたレースでした。これで勝てないのはマシンの面で何かやることあるからだろうと思うので、次に向けてはチーム一丸となって頑張りたいと思います。

